

マスキリーニングにより発見されたクレチン症患者の成長の評価について  
—日本人における target height および target range の基礎的検討—  
(分担研究：現行マスキリーニングシステムに関する諸問題の検討—クレチン症)

緒 方 勤 ・ 松 尾 宣 武

要約：日本人小児の corrected target height (cTH) および target range (TR) を設定した。  
cTH, 男,  $\{PH+(MH+12)\}/2+5.5$ , 女,  $\{(PH-12)+MH\}/2+4.0$ , TR, 男,  $\pm 10$ , 女,  $\pm 9$  (単位 cm)。

見出し語：Target height, Corrected target height, Target range。

研究方法：日本人小児の成長パターンを、遺伝的背景を加味して評価する目的で、corrected target height (cTH, 世代間の最終身長之差で補正された target height) および target range (TR, TH の 95 %信頼限界) を, Tannerらの方法に準じて, 下記のごとく設定した。

1) cTH, 男,  $TH+d_1 = \{PH+(MH+D)\}/2+d_1$ , 女,  $TH+d_2 = \{(PH-D)+MH\}/2+d_2$  (PH 父親の実測身長, MH 母親の実測身長, D 男女間の平均最終身長之差,  $d_1$  男性の平均最終身長の世代間の差,  $d_2$  女性の平均最終身長の世代間の差), 2)  $TR = \pm 2RSD = \pm 2s\sqrt{1-r^2}$  (RSD 児の身長と両親の平均身長の regression の残差誤差, s 最終身長の標準偏差, r 児の身長と両親の平均身長の相関係数) (単位 cm)。

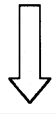
D,  $d_1$ ,  $d_2$ , s は, 1947年から1985年までの厚生省の調査に基づき, 20歳時の身長を最終身長, 20年間隔の最終身長之差を世代間の差とみなして算出した。児の身長と両親の平均身長の相関係数は, われわれが1987年に実施した某公立学校の家系調査に基づいて, 最終身長に達した男性 187人, 女性 192人を対象として算出した。

結果：1) cTH, 男,  $\{PH+(MH+12)\}/2+5.5$ , 女,  $\{(PH-12)+MH\}/2+4.0$ 。 2) TR, 男,  $\pm 10$  ( $r = 0.39$ ), 女,  $\pm 9$  ( $r = 0.35$ )。

考察：個人の成長パターンの評価においては, その遺伝的素因を考慮することが重要である。Tanner らにより提唱された TH および TR は, 両親の身長に基づいて個人の成長を評価する方法であり, 遺伝的背景の異なる個々のクレチン症患者の成長パターンの評価, および, 甲状腺ホルモン補充療法の成長に対する効果の判定に有用であると推測される。

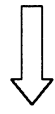
文献：1. Zackmann M, Nessi P. Theoretical growth evaluation. Clin Pediatr 1984; 23:609 2. Tanner JM. Use and abuse of growth standards. In: Falkner F, Tanner JM, eds: Human growth, ed 2. New York: Plenum, 1985.

慶応義塾大学医学部小児科 (Dept. of Pediatrics, Keio Univ. Med. Sch.)



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:日本人小児の corrected target height(cTH)および target range(TR)を設定した。  
cTH,男,{PH+(MH+12)}/2+5.5,女,{(PH-12)+MH}/2+4.0,TR,男,±10,女,±9(単位cm)。